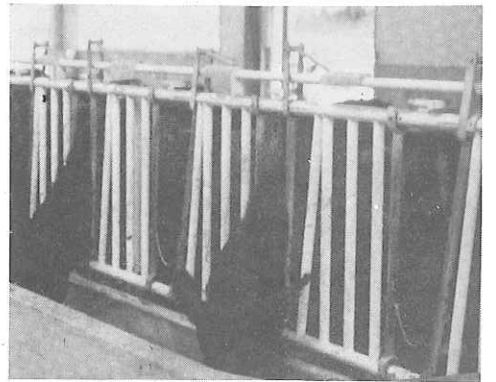


牛の自動繫留装置 カウバンダー



仕様		
型式	MMS-2	
容量	2 m ³	
全高	1,600mm	
直径	1,630mm	
本体	高さ	1,350mm
	上径	1,430mm
	底径	1,350mm
重量	50 kg	

小規模和牛の通年サイレージに FRPミニミニサイロ



- 水封気密方式で良質サイレージ
 - 半永久時に使用可
- 他機種 ミニサイロ 5M³, 8M³, 10M³
タワーサイロ 20~150M³

- 牛が飼料を採食すると同時に自動的にけい留できる。
- 多頭飼育・省力管理の導入が可能
- 繁殖和牛・育成牛に最適

製造元



倉敷市水江1575 TEL (0864) 65-3555

酪農畜産器機総合商社

発売元 株式会社小六

本社 岡山市福成2-14-23 (0862) 63-1221(代)
 落合営業所 真庭郡落合町上市瀬165-2 (08675) 2-3364
 金川営業所 御津郡御津町金川337 (08672) 4-0143
 津山営業所 津山市志戸部712 (08682) 2-1561

一・一・二月号もくじ

巻頭言

これからの牛肉生産と受精卵移植
和試 黒田場長

特集

第四回全国和牛能力共進会

- ① 全和登 西田専務
 - ② 和試 片寄 巧
 - ③ 津山市 池田 寛
- 阿新養豚団地が完成
市場市況

酪農懸念

高泌乳牛に対するトウモロコシサイレージ給与上の問題点
岡大 内田助教

随筆

肉畜基金 柏原要

普及所便り

団結で築いた蓬原酪農三〇年の歩み
高梁普及所

1 11 9 8 3 2 12 14 15

最近ある人と会食をした。この人はオーストラリアで受精卵移植の仕事に携わっておられ、この道の権威者で、私共が御指導を頂いている方である。たまたま論が和牛に及び、次のようなことを言われた。

「牛肉は消費が増えれば増える程、脂肪の多いものは食べづらくなるものであるが、それにしても御馳走として、年に一〜二回はバターナイフでも切れるような、柔いサシのある牛肉が食べたいものである。そして、正にそれに当たるのが和牛肉である。そのために和牛は極上肉を目指すべきで、徹底した保護のもとに生産されればよい。」

如何にして低コストの牛肉をつくり、潜在的に存在する牛肉需要に対応するか苦心している私共にとって、いささか心外な発言であったことは否めない。しかし草資源の豊富な、地価も安く、従って生産コストの安い牛肉生産国にあって、はるかに故国をしのびつつ思っ、わが国の牛肉生産のあり方は、そのようなものであるうかとも思った。

しかし、このことは、現在アメリカが強く求めている牛肉の輸入自由化を、現実のものとして考えるとき、深刻なものとして受け取らざるを得ない。消費者の牛肉志向が、生産者のサシ志向とは必ずしもマッチしない、という背景を承けて、「牛肉も、まず第一段階として、輸入枠

を二倍程度にすることを考えるべきだ」

(昭和五七年一月一日、読売新聞社説) という主張もなされている。仮に牛肉の輸入枠が二倍になったとした場合、現在国内需要の三分の一程度が輸入肉で賄われているから、約半分近くを占める乳牛肉、三分の一弱の和牛肉のいずれかが吹き飛ばすように考えられる。勿論、需要もある程度増えようから、全部が全部そうなるわけではあるまいと思われるが、深刻な打撃を受けることは否めない。この場合、子牛生産も含め、牛肉生産農家

巻頭言

これからの牛肉生産と

受精卵移植

のとるべき道は、サシ志向による高級肉生産か、輸入肉に競合しても負けないだけの低コスト生産かのいずれかが考えられる。前者の場合、縮小生産をたどる恐れがあるし、後者の場合、草資源の有効利用が徹底的になされる必要がある。

肥育における生産費の二大要因である素子費と、飼料費をさらに低コストに抑えるためには、粗飼料―土地を利用した草資源の利用が考えられる。牛は本来草で飼うという原則に立脚する限り、この基調をはずれた飼養には無理を生ずるの

は当然で、反芻動物としての牛本来の生理的現象に悪影響を与えることは勿論、土地利用を基本とする農業本来の姿からも逸脱して来る。この意味から如何に厳しい現実が生じようとも、この基本は堅持されねばならない。そしてこれを基調として、高級肉が大量肉かかかれば、今後の対応していかなばならないのが、今後の技術的な課題であろう。

従って、今後の牛肉生産は、黒毛和種の特質を生かしつつ消費に対応する大衆肉をという方向が模索されねばならない。

そして今、この手掛りとして、受精卵移植技術の進展に期待するのは早計であろうか。御承知のように受精卵移植とは、基本的にはホルモンによる多排卵処理によって、複数の受精卵を回収し、これを同時に発情させた牛へ移植するという技術から成立している。また受精卵の回収も着床率も低い。また同時に発情させる発情同期化という問題も存在している。

しかし精液が凍結保存して永年使用が可能になったように、受精卵においても凍結技術がほぼ確立された。こうなると来

ると発情同期化の繁雑さから免れることになるし、発情牛がおれば随時随所で移植が可能である。そうなるに優良雌牛から受精卵を取り出して、低能力の他の雌牛へ移植して、借腹によって多数の産子の取得が可能で、改良のスピードアップが図られるほか、和牛から乳牛への移植も可能であるから、牛乳の需要をみたしつつ、同時に高級牛肉生産も可能となって来る。また最初に紹介した先生は発情して種付した牛に、さらに一週間後に非妊娠側に他牛の受精卵の移植を試み、成果を得たということであった。こうなるのと同時に、別の目的の子牛をとることが可能で、同時に両方の要求を充たすことが出来るわけである。

緒についたばかりの技術について夢物語めいたことを述べたが、牛肉の輸入自由化という厳しい現実を目前にして、如何にこれを克服するかが、私共を含め牛肉生産にたずさわる者に課せられた問題であり、またそれが可能であらねばならぬと信じて筆をおく次第である。

岡山県和牛試験場長

黒田 昭昌



第4回全国和牛能力共進会を顧みて

岡山県和牛試験場 片 寄 功

「和牛改良組合を進展させよう」をテーマとした、第四回全国和牛能力共進会は、北海道から沖縄県に至る三十三道府県が参加して、昭和五十六年一月五月に開会され、去る昭和五十七年九月一日〜二〇日の福島県安達郡本宮町における最終比較審査をもって、初期の目的を達成し盛会に終了いたしました。出頭者をはじめ関係者の皆さんは大変長い間ご苦労様でした。

この種の和牛能力共進会は、昭和四一年岡山市において開催されたのが第一回であります。私が終始お手伝いをさせて頂いたのは今回が初めてであり、また、最終比較審査会場で全国から出品された代表牛について勉強する機会を得たのも最初でありました。そこで、今回の全共を振り返って感じたことを若干述べてみたいと思います。

この全共に対する当初の参加申込み頭数は全国で種牛五、〇二二頭、肥育牛八四七頭、計五、八六八頭にもおよびましたが、最終比較審査に出品されたのは三二四頭（種牛二四二頭、肥育牛三三頭）であり、品種別では黒毛和種二〇五頭、褐毛和種五頭および無角和種四頭でありました。なお、岡山県からは若雄三頭、若雌四頭、高等登録群一組三頭、繁殖牛群一組五頭、畜種登録群一組三頭および去勢肥育牛一頭、計一九頭の出品でした。最終比較審査では、これらの選ばれた優秀な種牛や肥育牛について、日本独

望が強くなってきました。そうすると、購入する側も、揃った、いい牛がたくさん出てくるようなところへ行かないと、肥育経営の方の要求を満たすことができないわけですね。とにかく、頭数は揃えたいけれど、あっちで一〇頭、こっちで一〇頭という方法で購入した牛は、飼育方も系統もちがうわけですから、肥育農家としては、出荷してみないと肉質もわからないというところで経営にならないわけですね。ですから、全国の人がどういった判断をするかと言いますと、個々の個体ではなく、あの地域にはこのような牛がいて、肉質はこうなんだという、地域全体の牛についての判断で、良し悪しを決める時代に入ってきているのです。そういう時期に、全共で、個体出品の成績はよくても、群出品でもうめだたないということになると、全国の人は、やはり、岡山が勝ったという印象が薄くなるのは、当然だと思つたのです。

それでは、岡山では群出品でいい成績は出せないかと言つと、決してそんなことはないと思つた。これは対応の仕方だと思つた。もちろん、今回の出品には、ずいぶん努力をされたと思つた。しかし、他県の取り組みに比べたら、はたしてどうであったか、その辺りが問題だと思つた。

それから、もう一点は、先程も申しましたが、ワン・ストップ・ショッピングと云いますか、お客さんが、なるべく一

得の肉専用種としての価値判断、およびその改良効果と今後の和牛のあるべき姿を審査検討されたわけですね。

その結果、岡山県の出頭牛は第一四区の出頭肥育牛が惜しくも一等賞でしたが、他はすべて優等賞に入賞し、その成績は前回を上廻るものであり、みるべき成果があったと思つた。

即ち、岡山県の出頭牛は体格と前軀にやや難点があったものの、発育、均称、品位、中軀および尻などは他の出品牛を圧するものであったと確信すると同時に、全国から出品された三二四頭の約六〇％は五代祖までに岡山牛の血統が入っていたと云つたことですね。

これは前回の六三％よりも若干低くなつてはいますが、未だ全国の和牛改良には岡山牛が重要な役割を果たしていることを物語っているのです。われわれ和牛にかかわりをもつものは、このことを十分に認識して今後の畜種改良を推進しなくてはならないでしょう。

さて、私は今回の全共にあたり、とくに第一一区（高等登録群）、第二一区（繁殖雌牛群）および第二三区（畜種登録群）の出品を中心に対応したわけですが、ご存じのとおり、これらの区については初産月令、分娩間隔、血縁関係あるいは産地などが出品資格として条件づけられており、しかも相似性のあるものでその群構成をする必要があり、他の出品対策委員ととも苦勞をしたところですね。な

第4回全国和牛能力共進会を終えて感じたこと

(社)全国和牛登録協会 西 田 孝 雄

今回の福島全共の結果をみますと、さすがに岡山県だ、という印象を受けました。個体出品では、農林水産大臣賞こそ一頭しか獲得してありませんが、中身は圧倒的に近い素晴らしい成績だと思つた。岡山独特の、キリツとして、しかも体積感を出して行くあの技術は、誰が何と云っても天下一品だと思つて、私は見せていただきました。

しかし、なぜか、岡山が勝つたという印象が、誰にきいても、又、私どもにもピンとこないのです。その理由は、群出品がどうも振わない、というところにあるようです。決して悪くはないのですが、個体出品は岡山、という名に比べて、どうも、群出品が、今一歩なのです。

最近の全共をご覧になるとわかるように、群出品が主流を成しています。出品頭数から云いまして、群出品が、はるかに多いという実情です。ですから、全国の人々が全共の評価をする場合、群出品で良い成績をとったところが、勝つたという印象を持つのが事実です。

これが、昔のように、役肉用牛の時代には、個体出品が主体で、群出品などはありませんでした。ですから、個々の個体が良ければ、即、その県の牛は良いということになっていたので、最近のよつに肉用牛経営ということになりますと、肥育経営の方としては、できるだけ系統の揃った、同じような所で飼われた牛をまとめて買ってきてほしいという要

望が強くなってきました。そうすると、購入する側も、揃った、いい牛がたくさん出てくるようなところへ行かないと、肥育経営の方の要求を満たすことができないわけですね。とにかく、頭数は揃えたいけれど、あっちで一〇頭、こっちで一〇頭という方法で購入した牛は、飼育方も系統もちがうわけですから、肥育農家としては、出荷してみないと肉質もわからないというところで経営にならないわけですね。ですから、全国の人がどういった判断をするかと言いますと、個々の個体ではなく、あの地域にはこのような牛がいて、肉質はこうなんだという、地域全体の牛についての判断で、良し悪しを決める時代に入ってきているのです。そういう時期に、全共で、個体出品の成績はよくても、群出品でもうめだたないということになると、全国の人は、やはり、岡山が勝ったという印象が薄くなるのは、当然だと思つたのです。

それでは、岡山では群出品でいい成績は出せないかと言つと、決してそんなことはないと思つた。これは対応の仕方だと思つた。もちろん、今回の出品には、ずいぶん努力をされたと思つた。しかし、他県の取り組みに比べたら、はたしてどうであったか、その辺りが問題だと思つた。

それから、もう一点は、先程も申しましたが、ワン・ストップ・ショッピングと云いますか、お客さんが、なるべく一

カ所で止つたら、そこでまとめて全部購入して帰るとい時代ですから、それが可能な所には、少々牛の値段が高くて、購入しに行くのです。ところが、いい牛だとわかつていても、一カ所でまとめて購入できない所へは、徐々に、行かなくなりまして。そこで、市場の統合の問題を見ましても、岡山では対応が遅れているような気がします。岡山では、種々の面で非常に積極的に取り組まれているのですが、こういった重要な点が、少々、抜けている気がします。

以上の点を、今回の全共に際して、反省をしていただければと思つた。

この原稿は、一月一日、真庭郡大佐町で開催された、和牛の日の、西田先生の講演の中から、全共に関連した部分だけを抜粋したものです。



第4回全国和牛能力共進会を終えて

岡山県経済連 畜産部

五年ごとに開かれる、和牛のオリンピック、第四回全共が、福島県安達郡本宮町に於て、全国三道府県から三十四頭が出品され、九月一日から九月二〇日迄、最終審査が行なわれ、優秀性が競われました。

岡山県代表牛の出品、及び授賞の内訳は、別表のとおりで、優等賞一〇点、一等賞一点という、全国でもトップクラスの見事な成績でした。また、全出品牛(三十四頭)の中に、約六〇%のものが、岡山系の血液が入り、全国的に、いかに改良の為に貢献しているかがわかります。

さて、第一区の牛ですが、この牛は、直接検定終了後、出品までの飼育期間が短かった関係上、体型、資質は立派な牛でしたが、今少し、体積があれば、トップクラスになったのにと、くやまれました。第四区の牛も、体型的に立派な牛でしたが、育成途中の発病(肝臓)による栄養回復が遅れた事が残念でした。

一七日の審査において、二区、五区、七区の岡山牛がトップに選ばれた時は、拍手喝采を送ったのですが、翌、一八日の比較審査に於て、五区、七区ともに、次席に並べかえられた時は、無念の涙を飲んだのであります。しかし、他県の方々には、今さらながら、岡山の実力を知り、素晴らしさを再認識し、今後の改良方針に岡山牛を取り入れたいと、必ずや感してくれたことと思えるほどの、審査風景でした。

岡山県出品牛授賞の内訳

出品区	名 号	出品者住所氏名	授賞の内訳		
			優等	1等	2等
1区	新(56.5.22)生れ	勝田郡勝央町 東 安夫	8席		
2区	第(55.12.20)生れ	新見市西方 中村 輝男	1席		
3区	第(55.10.18)生れ	勝田郡勝北町 久永 徹	4席		
4区	第(56.4.16)生れ	真庭郡落合町 庄司 一夫	7席		
5区	第(56.2.7)生れ	真庭郡落合町 飯田 信一	2席		
6区	ゆ(55.11.2)生れ	苫田郡加茂町 松元 政晴	3席		
7区	さ(55.7.18)生れ	津山市林田 池田 寛	2席		
8区	該当なし				
9区	"				
10区	"				
11区	第(51.9.28)生れ	阿哲郡大佐町 塚本 友市	10席		
	第(54.11.5)生れ	"			
	第(56.1.8)生れ	"			
12区	第(52.5.20)生れ	阿哲郡哲多町 沖田 武延	4席		
	第(51.6.11)生れ	" 大佐町 山田 守正			
	第(51.2.5)生れ	" 哲多町 江田 吉美			
	第(50.11.11)生れ	" " 清水 隆喜			
	第(50.6.20)生れ	" 大佐町 下田 勇			
13区	第(54.12.25)生れ	真庭郡湯原町 戸田 正孝	6席		
	第(54.12.15)生れ	" " 小椋 明			
	あ(54.11.12)生れ	" " 森本 博			
14区	勝(55.8.25)生れ	英田郡作東町 宮浦 克業	5席		

さて、グループ出品の二区、高等登録群は、出品してみても、斉一性にやや欠けた感がありました。二区は繁殖雌牛群は、斉一性はありますが、管理面で、特に蹄に難点があったように見受けられました。一三区の首種登録牛では、他県より月令が若いせいもあるが、発育、体積が、やや不足する点を痛感しました。

次回、鳥根県で開催予定の第五回全共までは、群出品について、県内和牛の増頭による基礎作り、各奨励事業、保胎事業、育種事業、改良組合の基礎牛制度などの適切な実施により、育種牛の計画交配、厳選を重ねてゆかねばなりません。

一四区については、生体審査でB級に選ばれた、解体の結果、肉質に若干の難点がありました。血統的にも良く、管理も十分でしたが、今後、飼養方法について検討する必要があります。岡山県出品母牛と同一の父系の産子で、栃木県鹿沼地区

ったことと、これに対する関係者の配慮が不足していたのではと反省をしているのです。

次に、第一四区(主勢肥育牛)について若干ふれてみたいと思います。

この区には、楊毛和種一頭を含む三三頭が出品されており、楊毛和種以外は五代祖まですべて兵庫県の血統がかかわりをもっていました。また、兵庫系を直接父牛とするものが一四頭(四一・四%)、鳥根系を直接父牛とするものが六頭(一八・二%)を占めており、いかに肉質に対して血統が重視されたかが歴然としています。

このうち、鳥根系のもを分析してみますと、肉質について強力遺伝を示すものとして有名な、あの第七系統がすべてに関与していますが、この父牛は皆さんご承知の第一四区(藤良系)であり、この血液をうけついただものは八頭出品されておりました。

岡山県も血統を十分に考慮し、牛の仕上がり状態や、体型あるいは資質などについても検討して選抜をしたにもかかわらず、残念ながら枝肉の成績は今一つでありました。

即ち、と殺前体重六九八kg、温と体重四七八・五kg、枝肉歩留六八・六%で、これは優れていたのですが、肉質において重要な項目であるロース芯の脂肪交雑はプラス三・〇、ロース芯の面積が四九・〇cmで期待に反したことです。

参考までに、これらについて三三頭の平均数値をみてみますと、と殺前体重が六八二・四kg、温と体重は四三三・七kg、枝肉歩留六五・六%、ロース芯の脂肪交雑はプラス三・六%、ロース芯の面積五三・六cmであり、また、第一四区にかかわる八頭についてみますと、それぞれ七一・五kg、四七二・五kg、六六・〇%、プラス四・一、および五五・五cmとなっています。

本県から出品した肥育牛の肉質が劣っていた原因は何なのか、どこにあるのか、血統、飼料の内容、飼料の給与技術、あるいは飼育環境などあらゆる角度から、さらに検討をする必要があるようです。

よく県外の方から、岡山県産の素牛は良い肉質のものでできると聞きます。今回の共進会にも栃木県から系藤号の産子が肥育牛として出品されておりましたが、これはロース芯の脂肪交雑が五・〇で、特別賞として脂肪交雑賞を贈賞しているのです。

いずれにしても、今後に残された課題は少なくありません。また、和牛の改良も限りなく続くものであります。どうか第四回全共を一つの契機として、関係者一丸となって本県産和牛の、ますますの発展と、五年後におこなわれる第五回全共の制覇を目指して頑張るうではありませぬか。

中央畜産会の最新刊書

吉田実・阿部猛夫監修 (B5判320頁)

畜舎等投資問題検討会編 (A5判67頁)

畜産における統計的方法

畜舎等整備の手引

畜産分野での試験研究計画のたてかたから、データの適正な処理方法などを述べたのが本書で、おもな内容はつぎのとおり。

畜舎や畜産施設等の整備と適正な投資のための指針書で、その内容はつぎのとおり。

1. データの分布
 2. 検定と推定
 3. 要因計画
 4. 相関と回帰
 5. 計数データの取扱い
 6. ノンパラメトリック法
 7. 要因実験計画法と組合わせた回帰分析
 8. 不整なデータの取扱い
- (定価 2,300円, 送料 300円)

- I. 畜舎等整備のための基本的考え方
- II. 畜舎等整備のための留意事項
 1. 畜舎等の効率利用と畜舎等整備による経常改善効果の把握
 2. 期待収益の確保と資金循環からみた安全性の維持
- III. 畜舎等整備にあたっての適正投資額のとらえ方と適正投資のための参考指標
 1. 適正投資額のとらえ方
 2. 適正投資の参考指標

(定価 600円, 送料 200円)

お申し込みは

〒700

岡山県畜産会へ

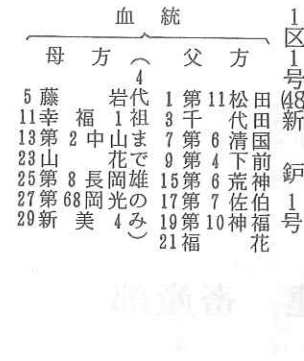
岡山市磨屋町9-18 農業会館5F
TEL 0862 (22) 8575

で肥育し出品されてきましたが、優等賞の六位となり、しかも脂肪交雜質という特別賞も受賞しています。出品目録の「育種的解析」にも記されておきますように、この牛の父、糸磨号は、岡山系の赤丸(第六藤原、第六藤盛、第一四茂)と兵庫系の赤丸(城松、城土井)を持つと同時に、岡山系の白丸も持っている。第二方式でできた種雄牛で、最近の岡山県種雄牛の中で、唯一の赤丸(資質ライン)として明記されています。この裏付けとしても、脂肪交雜質が栃木の牛に授与された事に、我々は意を強くするものであり、今後、糸磨号を中心として、赤丸の牛が多く改良造成される事を願うものです。

次に、今後の参考として、岡山県出品牛の短評を申しあげます。(登録協会、岡山県支部評)

◎県出品牛の短評

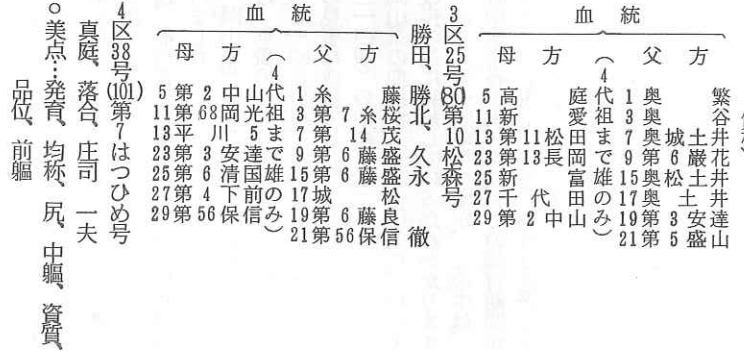
県代表牛の短評を申しあげるとおおむね次の通りです。



勝田、勝央、東、安夫
○美点：發育、資質、均称、中軀、尻(体積)
○難点：体伸、肩端、下腿(今少しの体積)

2区14号(66) 第2松守号

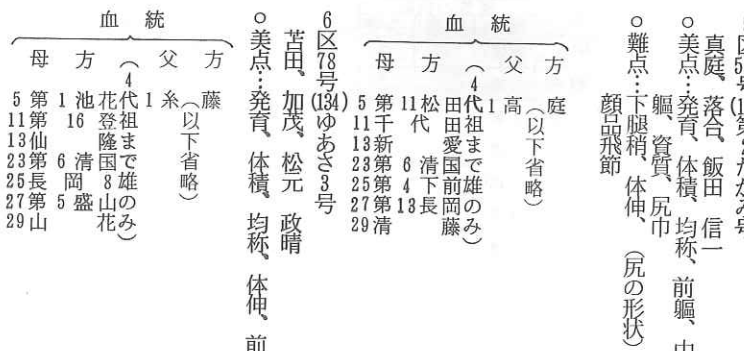
新見、西友、中村、輝男
○美点：資質、均称、中軀、尻
○難点：稍前軀、下腿(頭頸)(今少し体積)



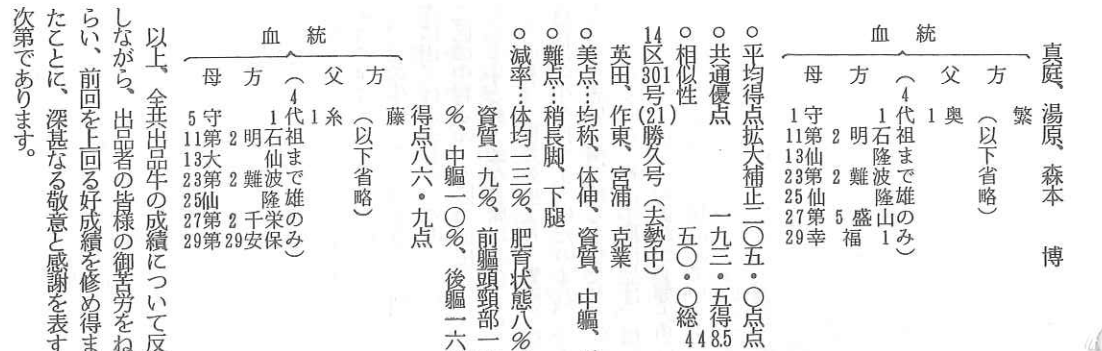
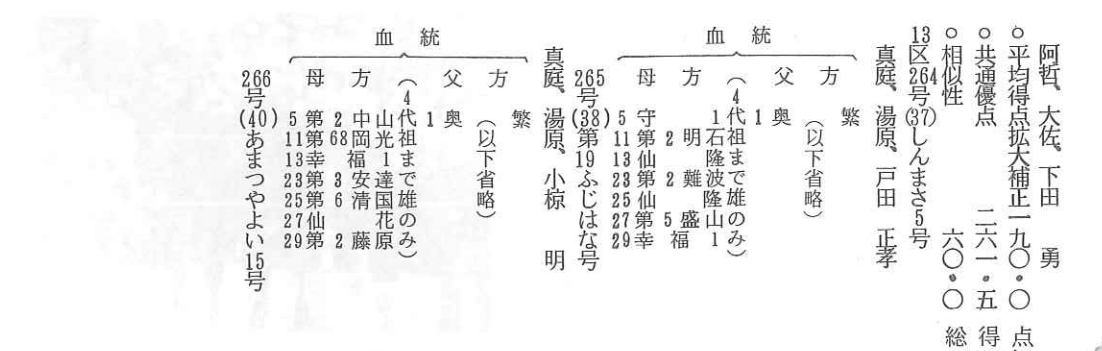
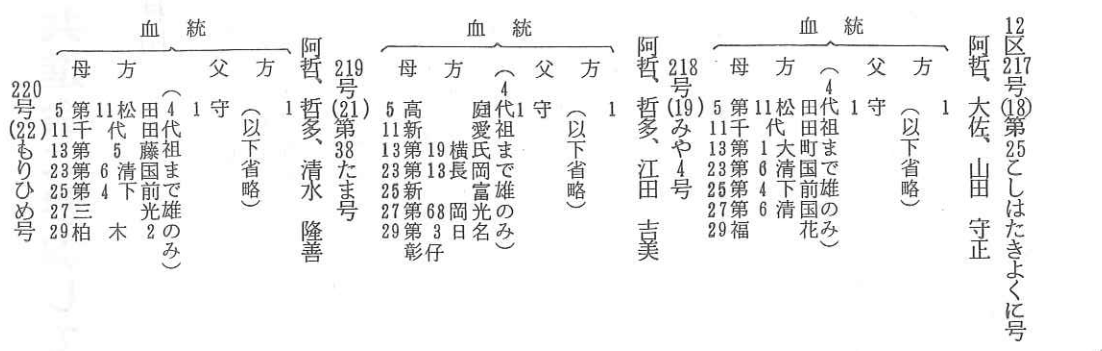
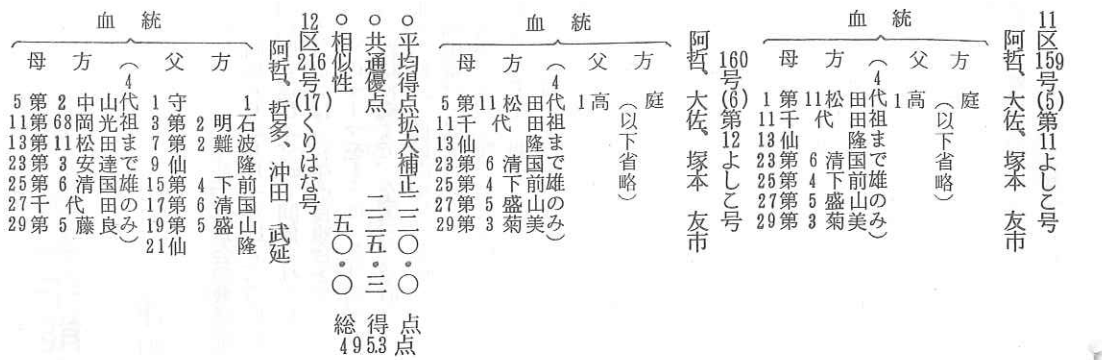
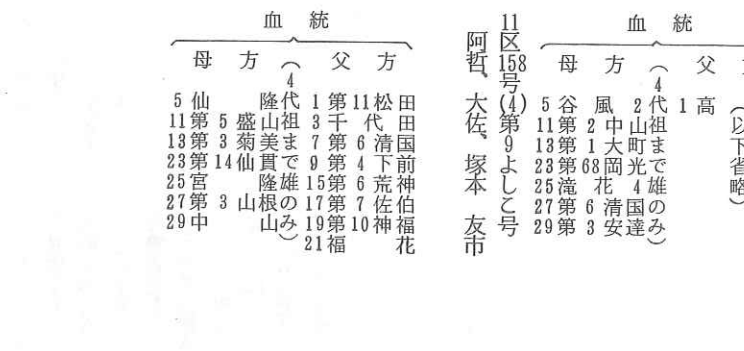
○難点：下腿(今少しの体積)

5区58号(116) 第2たかみ号

真庭、落合、飯田、信一
○美点：發育、體積、均称、前軀、中軀、資質、尻巾
○難点：下腿稍、体伸(尻の形状)、顏部飛節



真庭、湯原、森本、博
○平均得点拡大補正(1.5) 点
○共通優点 二一・一五 得点
○相似性 六〇・〇 総得点 51.5



第四回全国和牛能力共進会に参加して

津山市林田 池田 寛

第四回全国和牛能力共進会の最終審査が、昭和五十七年九月一日〜二〇日まで福島県安達郡本宮町で開催されました。本共進会は一和牛改良組合を発展させようとのテーマをもち、北は北海道から、南は沖縄まで、全国三道府県の参加で、計二四頭の和牛の参加でした。岡山県は一区〜六区までが一頭ずつ、七区が、今回は親子づねを原則とされていきましたので、親子一頭の出品でした。一区の高等登録群三頭、二区の繁殖雌牛群の五頭、三区の畜種登録群の三頭、四区の去勢肥育牛の一頭、計一九頭が最終審査に挑みました。

九月二日、津山家畜市場に於ての壮行式では関係機関の盛大な激励を受け、出品者の私たちも、心新たに県代表として出発しました。

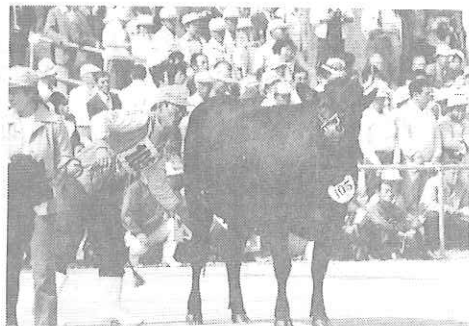
あいにくの台風の通過に伴い名古屋の養老パーキングエリアで、十数時間の立往生の末一四日午前二時頃に審査会場に到着した時には全ての県は、準備万端されておりました。暗やみの中持参の竹等で柵を組み、牛を落ち着かせました。何分にも長時間の輸送なので一部の牛が車酔って心配しました。荷物を下ろし準備が整

った時には夜が明けました。会場は、福島県家畜市場で開かれ、こは、小高い丘の上に造成されており、総面積約七haあり、近代的な設備が整っていました。しかし、牛舎はやや狭く感じました。

一四日は、測尺、体重測定、開会式の練習があり、牛の健康状態はだいぶ整っていました。夜は出品者の長期にわたる労をねぎらうとともに、最終審査におけるお互いの健康を誓い合うための前夜祭が警備ランドホテルで開かれました。

一五日、午前九時より開会式が開かれ、全国から選ばれた牛が、会場をパレードしました。色とり彩りのユタンを着せての行進は、まさに和牛のオリンピックにふさわしく堂々たるものでした。岡山県のユタンは一際めだつ立派なものでした。

一五日午後、若雄、若雌の審査が行なわれました。審査の方法は、各区別に出品され、審査場には三本の線が引いてあり、最初一番後列に整列しその中より審査員が良い順に中央の線に前進させ、この位置で牛を調教し待っています。そして今度は、この中より審査員が見て回り



全共会場の池田さんと愛牛さわひめ4

良い牛を前列に進めます。第一回の審査では、私の出品牛「さわひめ四号」は、広島、島根の次の三席におりました。この日は一昨日からの睡眠不足と、緊張から、皆な極度に疲労を感じていましたが、これからの勝負と岡山県勢は一致団結し、チームワークを固めました。

一六日、午前中、一〇区〜三区の繁殖牛群の審査がありました。その後、参事出品牛（第三回の島根の天皇賞）の展示説明がありました。この牛群をみるのは五年ぶりですが、年齢のせいか体がくずれており、体形も小さくなっています。しかし、骨じまりとか、肢蹄、皮膚被毛等は、前回のチャンピオンの面影が残っていました。若牛区は、午後第二回の審査が行なわれました。

この日は、私の牛は、広島次に並びました。広島立川さんは、繁殖牛二〇頭程度飼育されており、第三回の全共からの付き合いです。私方にもこれたことがありません。私も一度見学に行ったことがあり、非常に飼育環境の良い所と記憶にあります。この日は、岡山県勢は、各区とも最前列に出ていました。

一七日、午前中、若雄、若雌の審査が行なわれました。この日も、前日と同じように全頭後列に並び、順次前進しました。私の牛は、第二線より、最前列の首席に出て行きました。この日の岡山勢は、一区の中村さん、五区の飯田さん、七区の私の牛と計三頭が首席に並びました。

今回私は、柳井先生より、繁殖牛群、畜種群の牛を持つようになったのまれ、何事も勉強と思ひ、綱を持ちましたが、何分経験不足でした。特に牛群出品は、横からの調教と、前からの調教が必要だと思いました。私自身、牛を出品していると、他の牛を見る機会がなかなかないので、この度は、他県の牛群や、調教技術等を見る事が出来勉強になりました。群出品は、まず表現型が良く似ていることが一番で、それから体高が揃っていて大きいこと、ポリウム感があると思ひました。

大会四日目の一八日は、審査が今までの逆で、午前中、七区から行なわれました。審査は、前日と同じに第二線までは、岡山、広島、島根と並んでいきましたが途

ニュース

阿新養豚団地が完成

岡山県 畜産課

本県における養豚は、好調な消費の伸びに支えられて、美星町、備中町など、農協を核とした大型地域内一貫経営を中心に飛躍的な発展が見られたが、最近に至り、豚肉の消費の伸び悩み、豚肉輸入量の増大などから、慢性的な需給緩和の傾向が見られ、豚価が不安定となり、養豚経営はきわめて厳しい状況に立ち至っている。しかし、養豚は、飼料効率がよいこと、資金回転が早いこと、更には土地の集約的利用ができることなどから、耕地面積の少ない本県にとって、農業の定着化を図るための主要作物として、秩序ある振興を行うこととして、表一のとおり肉豚生産目標を定めている。

このような状況をふまえ、阿新地区においては、新しく建設が予定されている広域食肉流通センターとの関連も含め、昭和六〇年度までに肉豚一頭出荷体制の整備を計画し、その第一次計画として昭和五十六年度に阿新農協が事業主体となり、畜産団地整備育成事業（国庫補助事業）を受けて、新見市足見に、常時一〇〇〇頭飼養規模の共同利用豚肥育施設を、総事業費一億三、四〇〇万円をかけた

て工事を行い、昭和五十七年五月に完成した。この施設は、現在、新見市、哲多郡四町で子取り養豚経営を行っている農家八戸から生産される、生後三カ月令程度の子豚を集めて、約一〇〇日間肥育し、肉豚として出荷するものであり、阿新地区の地域内一貫経営の要となるもので、この施設で年間三、〇〇〇頭の肉豚出荷が可能となった。なお、施設の内容は、五〇〇頭飼養規模の鉄骨スレート平屋建豚舎一棟と堆肥舎、飼料庫、管理棟などの附帯施設を備えている。

大きな特徴は、豚房床構造で、約七〇センチメートルの厚さに醗酵菌を混ぜたオガクズをしきつめた「オガクズ醗酵式床構造」としたところにあり、概要は図一のとおりである。

この方式によると豚房床を適宜攪拌するだけで、六カ月以上敷料を取り換える必要がないうえ、汚水の流出は全くなく、悪臭も少なく、環境保全上有利であり、補助事業としては初めての試みであるが、今後、県下の養豚施設整備のモデルパイロット的な性格を有しているものである。

中島根の牛が、最前列に出て行きました。次に私の牛、広島と続きました。六区の松元さんの牛は、三席、五区の飯田さんの牛は、前列の首席に並んでいましたが、歩様の点で、鳥取に譲り二席となりました。この区は、最も出品頭数が多い良い牛が揃っていました。鳥取の首席の牛は、子牛の時二百数万円と聞きました。四席の宮崎の牛は、四五一万円の牛だそうです。四区で、庄司さんの牛が七席に並びました。三区で、久永さんの牛が四席、二区で中村さんの牛が首席、一区で、東さんの牛が八席となりました。

午後二時から、繁殖群の審査が行なわれました。三区の畜種群で、湯原の二頭が六席になりました。首席は広島山口和町の牛で、非常に三頭とも良く揃い、大きくポリウム感のある牛と見ました。肉付きも適度で伸びがあって特に横から見た形が揃っていました。

一区の繁殖雌牛群では、阿新からの出品で、種牛は守一でした。結果は、広島、島根、鳥取に次いで四席に入りました。一二区は、高等群で、阿哲の塚本さんが出品されました。牛の大きさが揃っていませんが、残念と思ひました。首席は、大分の牛群で、この中の一頭は、守一の系統が入っていると聞きました。この牛群は、放牧地帯の牛で、良く揃っていましたが、特に肢蹄が良かったので、肢蹄賞を受賞、又この中の母牛が、腿賞

をもらいました。このような牛は、子牛の時から放牧で鍛えられ、牛本来の姿で完成された牛と見ました。又、第三回の宮崎の谷之木さんの牛群が今回、この区に出品されていたので、見せていただきます。この中の一頭は、前回特別賞として前腿賞をもらった牛です。後から見て、前幅があり胸の広い牛でした。一九日、この日は昨日に続き審査がありました。順位は決定しており、上位二席の展示説明が行なわれました。

一四区は去勢肥育牛は、今回から枝肉の審査基準によって順位を決定されました。岡山からは、糸藤の子が出品され、私も期待していましたが、一等五席になり又同じ糸藤の子が、栃木県より出品され、この牛は優等六席に入賞しており、特別賞として、脂肪交雑賞をもらっています。

以上期間中私の見たこと、感じた事を書きましたが、まだまだ岡山県は、種牛の産地として生きる自信を持ちました。前回よりも今回成績は上まわっており、次回、島根こそは、岡山の銘牛を披露したいものです。

この大会の期間中、多くの牛飼いの同僚や諸先生方との話を交え、色々な勉強をさせて頂いたことを、今後の私の牛飼いに役立たせたいと思っています。最後に、全国共進会参加に当り関係各機関に多大なご配慮を頂いた事を厚くお礼申し上げます。

枝肉格付状況・市況

1. 牛肉 (和・去)

10月岡山市場出荷分 (乳牛を含む)

格付	頭数	平均単価
極上	1	2,391 /kg
上	10	2,169
中	72	1,757
並	41	1,497
外	2	705
計(平)	126	1,704
「上」以上格付率	9	-

2. 豚肉

10月岡山市場出荷分

格付	頭数	平均単価
極上	0	- /kg
上	464	662
中	887	620
並	384	583
外	256	484
計(平)	1,991	599
「上」以上格付率	23	-

3. 57年10月子牛市況

市場	性	入場頭数	取引頭数	1頭当り価格			平均体重	kg当り単価
				最高	最低	平均		
久世	♀	200	174	803,000	105,000	259,295	253	1,026
	♂	154	153	350,000	107,000	213,994	256	837
	計	354	327	803,000	105,000	239,588	254	943
津山	♀	251	225	1,807,000	109,000	249,426	245	1,017
	♂	240	237	315,000	89,000	221,146	262	845
	計	491	462	1,807,000	89,000	235,603	253	930
高粱	♀	82	66	588,000	51,000	190,561	229	831
	♂	109	106	289,000	42,000	178,101	240	743
	計	191	172	588,000	42,000	183,450	235	780
新見	♀	208	107	716,000	41,000	204,923	247	825
	♂	226	218	326,000	95,000	233,230	263	905
	計	434	325	716,000	41,000	222,267	255	871
県計	♀	741	572	1,807,000	41,000	233,084	246	948
	♂	729	714	350,000	42,000	218,494	257	849
	計	1,470	1,286	1,807,000	41,000	225,849	252	898

4. 57年10月子豚市況

入場頭数	取引頭数	1頭当り価格		平均
		最高	最低	
621	621	35,900	15,500	25,572

表1. 肉豚生産の推移と目標

(単位:頭)

年次	51	52	53	54	55	56
生産頭数	114,717	131,539	149,478	155,147	158,308	142,780

年次	57	58	59	60	65	備考
生産目標	142,200	148,200	154,500	161,000	189,400	(56年修正)

また、床のオガクズは六カ月程度で交換するが、更に、六カ月間堆積し、完熟させ、周辺の果樹、野菜栽培農家へ堆肥として供給する計画であり、耕種農家との連携を保っているところも注目される点である。

横道にそれるが、阿新地区の農業は、

元来、米、和牛中心の地域であったが、近年、ブドウ、モモなどの果樹の産地としても発展してきており、更に農業の定着化、所得の向上を図るために、なじみの薄い当地へ養豚を取り入れるということは大英断であり、農協等の御努力に深く敬意を表する次第である。

我が国の畜産を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、これら厳しい諸情勢に対応していくためには、個人、個人ではいくら優れた経営者であっても困難であり、組織化された生産体制の整備が今後の大きな課題であることから、我々としてはこの施設に大きな期待をかけているところである。

今後、養豚の発展、経営安定のために

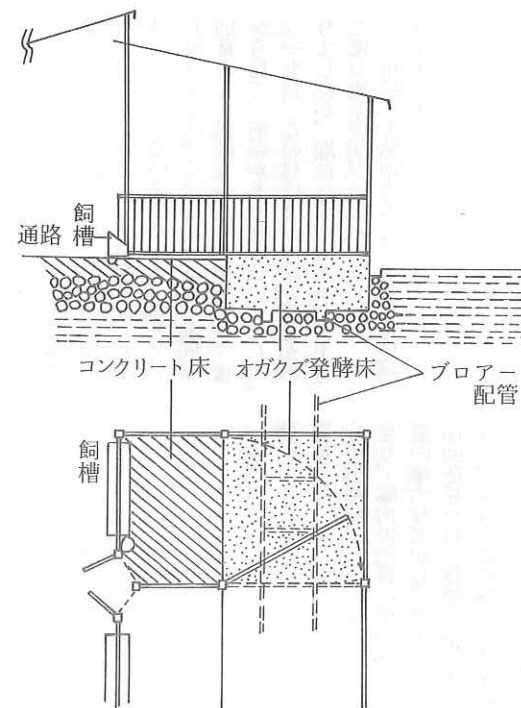


図1. 豚舎構造の概要

は、生産性の向上と肉豚の品質改善を行い消費者に喜ばれるおいしい豚肉、品揃えのよい豚肉生産に努めなければならぬと思う。県としては、積極的な優良種豚の導入をとおして種豚供給体制の確立とその改良を図るとともに、肉豚価格安定制度の充実強化、地域内一貫生産体制の整備を中心として計画的養豚振興を推進しているところである。

ともあれ、阿新地区に組織をあげての肉豚三、〇〇頭出荷体制が完成したことは、本県の養豚振興上大きな役割を果たしているといっても過言ではない。県内の関係機関総ぐるみで阿新養豚の発展のため、お力添えをお願いする次第である。

牛の健康、 緑の牧草は

タンカルで良い草を!

効めの早い タンカル肥料
持続性のある 土改1号, 2号



足立石灰工業株式会社

岡山市新見市足立 TEL (08679) 5-7111

高泌乳牛に対するトウモロコシサイレージ

給与上の問題点

岡山大学 農学部 内田 仙二

トウモロコシを考えると、グラス等とちがうのは、実を持つている、ということ。これをどのように考えるかが非常に重要になってきます。

そこで、利用について考える前に、材料の生産から、順を追って話しを進めたいと思います。

一、材料生産について

トウモロコシに実があるといいますが、作り方によって、実の量はちがってきます。まず、品種、系統の選択によって、実の量が違ってきます。台風との関係で品種を選ぶということもあるでしょうが、品種によって、実が一つ付く品種と、二つ付く品種があります。

一般に、実(イヤー)の部分とその他の部分が、どのくらいの割合であるかといえます。良くできたものでは実(イヤー)の部分が、乾燥で四五割くらいあります。そして、残りの四五割が茎葉というわけです。それではグレイン(粒)はどのくらいあるかといえます。乾燥で、全体の二十〜二十五割くらいあります。これらの数字は、品種、系統、栽培環境によって違ってきます。すなわち、畦幅をどのくらいにするかによって大分違うのです。例えば、六十cmにすると二五割くらいの実(イヤー)がつき、一mにすると二五割にも四十割にもなる、というふうに違ってきます。

それから収穫時期の問題ですが、よく

いわれますように、実が付くまでは、ただの草で、実がついてからが、トウモロコシということ。収穫適期は黄熟期頃だといわれています。ですから、黄熟期でないトウモロコシではない、というふうに考えるべきです。

二、調製について

トウモロコシは、最もサイレージ調製が容易なので、問題はないと思えますが次の点には注意が必要です。まず、材料処理ですが、これは、切断したらよいのか、破碎したらよいのかという問題があります。それから、トウモロコシサイレージは、サイロの機能や型を問わず、作りやすいですが、比重が重いので、サイロの耐強度を考慮したり、詰め込む時に、実ばかりが片一方に寄りたりせずに、均質に詰め込むことを考えないと、サイロが倒れたりする、といった問題がおこります。

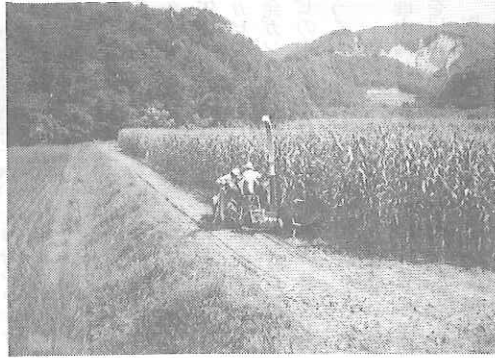
三、利用について

トウモロコシのホールクロップサイレージには、三つの特徴があります。一つは穀実を含んでいるということ。もちろん、一般のグラス類のように、茎葉も含んでいます。それから、粗飼料的要素と濃厚飼料的要素の両方をそなえているということ。濃厚飼料的要素は主としてデンプンで、いわゆる低分子の糖類はあまりありません。この糖類は、実の

方には少なく、茎の方にあります。したがって、十分実ののっているトウモロコシは、デンプンが多いわけです。それから三番目としては、単位面積当たりの高位生産が可能であるということ。すなわち、飼料価値・特性

それで、飼料価値、特性ということになります。乾燥物にはDCPは五割くらい、TDNは七十割くらいありDEはキロ当たり三Mcalくらいあります。それで計算してみますと、しっかり実の入った黄熟期のものは、二二キロ与えたと、熱量もタンパクも、六〇〇キロの体重の牛の維持飼料はまかなえます。この量は乾燥物で牛の体重の一・一割です。

さて、それでは、生産飼料として考えた場合どうかということ、いろいろ問題がでてきます。まずタンパク質の問題ですが、生産飼料とした場合、特に高泌乳牛の飼料とした場合は、良質のタンパク質を供給しないといけません。従来から、尿素を添加するサイレージ調製というのが、一般に行なわれているのですが、高泌乳牛に限って言えば、いわゆる不溶性タンパクという点では、全尿素ではだめなわけです。そこで、トウモロコシサイレージの相手飼料に何を添えて与えるかということになります。アメリカの場合は、アルファルファが相手飼料として最適であるということで選ばれており、しかも、乾草か、ヘイレージがよいということ。これには理由があり、乾草と



か、ヘイレージのタンパク質は不溶性になっており、第一胃で分解されにくいという形に入っているわけです。ですからアメリカに行くとき、例えば、四本サイロがあれば、そのうち二本にはアルファルファのヘイレージを詰め、あとの二本にトウモロコシを詰め、これを平行して作って、うまくミックスして給与していただきます。

タンパク質の問題をもう少し続けますと、乳生産の制限アミノ酸としては、メチオニンだといわれています。このメチオニンがある処理をして、ルーメンパイパスで第四胃以下へ行って初めて利用されるようにしたら、乳量が増えたという成績がたくさんあります。それからホル

マリン処理して与えたら、第一胃の生物に利用されないから、高泌乳に効果があるという研究もあります。現時点では、この方法は推薦できないといわれています。ところで、トウモロコシのタンパク質は、ツェインで、これは質的に劣っていますので、もし、第四胃以下へ行っても、高級アミノ酸効果を期待することは無理ですから、その点をよく考えて、高級アミノ酸、高品質のアミノ酸と一緒に与えるということが一番の要点です。

(二)物理的形態

次に、細切、破碎の問題があります。先程も申しましたように、粗飼料因子と濃厚飼料因子の両方が混ざっているわけですから、粗飼料因子を期待するならば、いわゆる、ある一定の長さとか太さが必要ですから、あまり細く切らないということが常識です。一方、トウモロコシの実というのは、そのまま与えますと十八〜二十三割は素通りして出て行きます。だから細く切って傷をつけないといけません。したがって、濃厚飼料的要素を期待するならば、細く切ることになります。それで、どっちを期待するか、あるいは、その妥協点はどこか、ということが問題になるわけです。しかし、これは、一概にはいえません。それは、細く切っても、長いもの、例えばワラなどを同時に与えれば、粗飼料的因子は充足される可能性があります。したがって、トウモロコシサイレージだけの問題では

なく、与える飼料全体の問題だということ。さらにいいますと、どういう飼養形態、どういう飼料給与形態、生産体系でやっているのか、ということまでさかのぼらないといけません。しかし、主としてトウモロコシサイレージを基礎飼

料、良質粗飼料として考えるならば、どの程度細く切ればよいか、実用上たいへん問題であるわけです。

表一を見てもわかりますと、切断長と消化率の関係は、細く切りますと、NFEなどは消化率が良くなります。また、表

表1 切断長と消化率

切断長 (cm)	0.63	1.27	1.91
物 質	71.8 (%)	71.3 (%)	67.7 (%)
粗 タ ン パ ク	64.3	61.3	61.7
粗 織 維	73.1	75.5	71.9
粗 脂 肪	85.0	81.6	80.3
N F E	74.9 a)	74.4 a)	68.5 b)
N D F	76.0	73.9	71.9
A D F	71.2	71.0	66.9

Sudweeks et al (1979)

表2 切断長とルーメン発酵

切断長 (cm)	0.63	1.27	1.91
酢 酸	63 (Mo1%)	66 (Mo1%)	67 (Mo1%)
ピ オ ン	22	19	18
酪 酸	12	11	10

Sudweeks et al (1979)

表3 材料処理と牛乳生産

	FCM	SNF	M. Prot.
1.3 cm 切断	2.02 (kg/日)	8.8 (%)	3.4 (%)
" 破碎	1.98	8.9	3.4

Miller et al (1970)

随筆 釣

岡山県畜価安定基金協会

柏原 要

二のとおり、ルーメン醗酵も、細く切れば濃厚飼料的要素が強まり、長いほど粗飼料的になります。材料処理と牛乳生産との関係はどうかといいますが、表三のとおり、FCMは切断だけの方が高く、逆にSNFは破碎の方が高くなっています。しかし、有意差はこれからは云えませんが。

ですから、従来どおり、〇・八〜一・五cmぐらいの範囲でしたら、トウモロコシサイレージばかりを与えているのではありませぬし、タンパク補給のために乾草も給与するので、そう神経質にならなくてもよいということが、このデータから云えると思います。

③カビについて

カビの問題ですが、トウモロコシサイレージは非常にカビが出やすいものです。二次醗酵しても出ますし、あるいは蓋を開けた上の方に出たりします。それで、このカビの毒なのですが、これは、毒のある可能性が非常に高いです。一九七二年に、トウモロコシサイレージにできたカビの解折をしたデータがありまして、発ガン性のあるアフラトキシンがこのカビの中に含まれている可能性もあるということになります。

一般には、カビの生えたサイレージは、理由はわからないのですが、リン欠症状を呈することが多いといわれています。以上三点が利用上問題になると思えます。

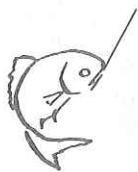
私の「釣り」は小学校の頃、近くの釣り好きの老人から鮎釣りを教わったことに始まる。凝り性と言うのか、学校から帰るや否や、取るものも取り敢えず、竿と餌箱、それにバケツをぶらさげて近くの川へ走る日々が続いた。やや長じては今は淡水湖となった児島湾に、又旭川に足をのぼしてハゼ、セイゴ、チヌと少々高級になって来た。

その後同好の士を得て、沖の船釣りに転身、メバル、チヌ、ギザミ、ススキ、また季節には大フグ、大タコなど、昭和三〇年代はまだまだ舟賃も安く、回を重ねて馴染になった船頭から色々工夫の魚の習性、釣りのコツなどを聞き出すこともできて、益々深みにはまっていった。昭和四〇年ごろから、勤めがいそがしくなり、仲間の転勤などもあつて、年に二〜三回が精々と言ふ期間が続いたが、一昨年春から、思いも掛かず良き仲間の好意を得て、再び足繁く船に乗る様になって、困ったことではある。

の、あの、えも言われない感触を（この場合、小さな魚は絶対に揚げて来ない）肌を感じながら、そして今度はこのところをこうしてみよう、などと仕掛けに工夫をこらしながら、心は最早や釣船の上にいる。真の釣りの醍醐味はこの時にこそ在るのではなからうか、と云え思える。

私の釣りは、数千円も万円もする釣竿をもつて、立派な釣衣を着てする釣人の格好良さには程遠いもので、二年あまり前五千円ほどの材料を求めて作った道具を後生大事に使っている。クーラーも持たない誠にお粗末なものではあるが、自分なりに何物に代る難いものとしてこれを楽しみながら、釣りとは同船仲間の好調などに刺激されてのアセリは禁物、益々調子が狂って釣れなくなる、平常心こそ大切、などと自らの未熟を棚に上げて人生哲学にも似た悟りを開いたりなどする今日この頃である。

ともあれ畜産界も益々厳しさが加わり私の職場も牛牛価格の低迷等から多忙を極めてはいるが、それ故にこそ充実した明日への心の糧として、何も彼も忘れて無心に糸を垂れるひと時を、これからも努めて持ちたいと思ふ。



普及所便り

団結で築いた

蓬原酪農三〇年の歩み

高粱農業改良普及所

はじめに

かつては、米、麦、和牛、養蚕、タバコを中心とした多角的な家族経営が中心であったこの地区に、昭和二〇年後半、当時の若者七名が、グループを結成し、共同で緩傾斜の山林を開墾して、二〇世紀梨を導入した。これが本格的な共同作業による村づくりの始まりとなった。また、同時に当時はあまり考えられなかったオーチャードグラスを、は種した牧草地を造成し、乳牛導入のきっかけを作った。

三〇年代には、いち早く農業構造改善事業を導入し、柵田の基盤整備と耕地の交換分合を実施し、水田利用の高度化と高位生産による酪農の振興と、梨複合経営のための施設と機械整備が行なわれた。しかし、梨は袋掛と田植期、収穫と、牧草播種管理等と大巾な労働競合により、梨の結実が期待される頃には殆んど伐採されている。

四〇年に入り乳牛は全戸に飼育され、その規模も逐次増頭され、この頃から専

業的な酪農へと移行され、飼料畑造成を共同で実施するなど、その後も水田利用再編を機に集団転作と取り組み、計画的に飼料作物を栽培し、飼料自給率の向上による安定した酪農経営へと努力された。当時としては酪農にとって必ずしも良い環境とはいえない条件下にもかかわらず、一戸の落伍者もなく、現在もお集落全体が乳の里として酪農経営が続けられている。

一、共同化の推進体制

昭和三五年に酪農組合が結成され、組織を総務と専門部に分け、時に機械係を畜産と耕種に機能分担し、専門部は、年間の作業計画と機械利用計画を樹立し、七五のトラクターに、各種作業機を装備して、飼料作物及び水稲の大型機械による、一貫作業体系を実施し、費用は利用

面積によって請求され、会計係が徴収し、年一回会計報告を行っている。

また、糞尿による環境汚染防止には特に留意し、尿は五〇ℓ入りのタンクを設け、定置配管で畑地へ施用し、糞はセクターで良質堆肥を製造し、各農家の圃場に還元されている。将来は流通への希望も託して機械係が運用をすすめているが、この組織体制は次の図の通りである。

二、技術体系の特徴

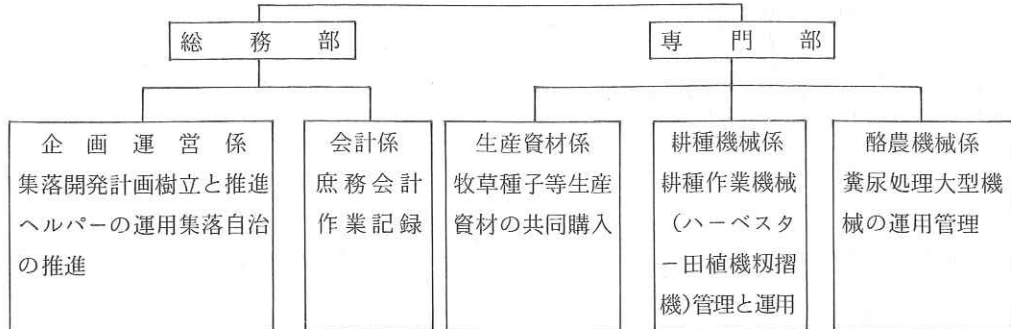
水田の飼料転換畑、裏作、山地開発による草地造成地による牧草栽培等、水田と山を利用し、良質粗飼料を生産し、飼料自給率の向上に努めている。近年はトウモロコシを主体に、作付けの品種選択と、は種時期の調整等により、一〇アール当たり平均収量七t以上を収穫され、年間の粗飼料は、埋草八〇%、乾草又は稲わら一五%、青草五%を基準に給与されている。

三、代表農家の概要

現在の蓬原集落には一戸で二〇頭が飼育されているが、飼育規模の多い農家と平均的な農家の五力年の経過は次表の通りである。

飼育頭数は五力年間殆んど同じ規模で推移しているが、乳量においては順調な伸びを示している。このことは、長い経験と熱心な研究と、たゆまぬ努力によるものである。

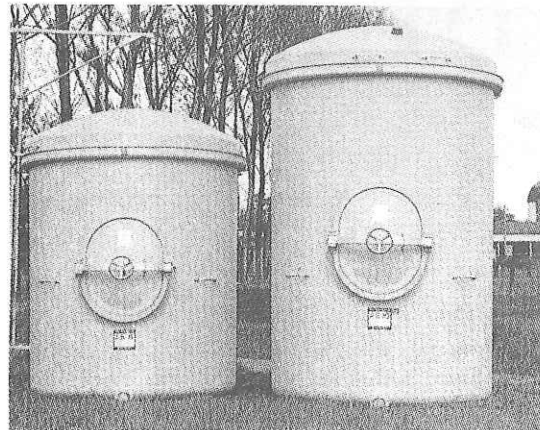
蓬原集落の農業共同体系組織図



簡易小型サイロ

minny

●水田利用再編対策に最適です。



●ミニ仕様

型式	A S		
	5	8	10
実容量 (m ³)	5	8	10
直径 (m)	2.10	2.31	2.31
有効高さ (m)	2.20	2.46	3.07
全高 (m)	2.69	2.86	3.46
W (kg)	200	250	270
パネル数	一体成形		

注) ミニーは水で密閉して、ますので、貯水溝には水を切らないようにしてください。

中国工業株式会社

本社 広島支店 広島市中区八丁堀15番10号 (セントラルビル) 電話 (0822) 21-8111代

代表農家の概要

No.	年	頭数		年間乳量	乳代金	購入飼料代	延飼料作付面積 (a)	1頭当り				乳飼比
		成換	経産					乳量(経産)	分娩間かく	産次	飼料作付面積	
号農家	52	298	275	170,705	18,949,103	6,643,220	582	kg	月	産次	a	%
	53		272	182,893	20,787,349			6,207	12.0	3.0	19.5	35.1
	54	330	285	192,732	21,843,029	6,681,249	1,089	6,724	13.8	4.7	28.9	30.6
	55	330	281	203,303	22,805,034	9,010,655	1,094	7,235	12.1	4.2	33.0	39.5
	56	332	287	204,645	22,390,209	8,239,596	1,130	7,130	13.3	4.0	34.0	36.8
二号農家	52	201	168	86,426.8	9,513,306	4,163,493	514	kg	月	産次	a	%
	53		165	90,056.0	10,157,508			5,144	13.1	3.65	25.6	43.8
	54	187	160	98,276.7	11,154,164	3,363,836	403.9	5,459	13.2	3.75	21.6	30.2
	55	192	164	109,994.8	12,230,825	5,346,115	735.3	6,309	13.3	2.50	38.3	43.5
	56	171	150	106,598.5	11,566,205	4,702,790	658.3	7,106	12.7	3.25	38.5	40.7

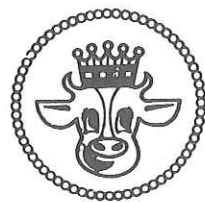
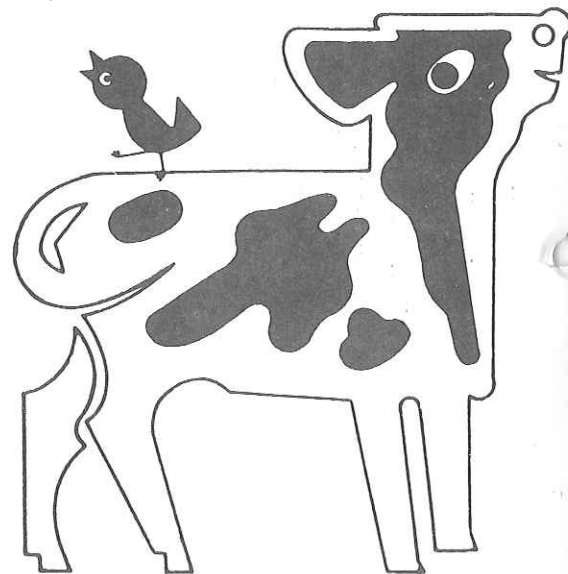
乳は国産 エサは全酪

団結は力!
系統利用は団結の象徴

最高の水準をゆく全酪連乳用子牛育成体系
(乳牛の飼料は専門の全酪連におまかせ下さい)

主要取扱品目

専管、増産ふすま。外国大麦飼料。
カーフトップ。脱粉飼料。カーフスターター。
幼牛用、搾乳用配合飼料。
その他酪農用飼料資材全般。
市乳、バター、チーズ、練乳、粉乳。



日夜酪農民の利益増進に奉仕する酪農専門農協!
全国酪農業協同組合連合会

むすび

牛舎は、やや粗末ではあるが、倉飼いで毎日五時間前後の日光浴と運動をさせ、牛舎にアンモニア臭が残ると、乳量の減少と疾病を誘発するので、換気と清掃、年一回の削蹄等、牛体の手入れ、発情と異常牛の早期発見等、事故牛の発生防止には細心の注意が払われている。

三〇年間集落全戸で酪農を営み、各戸に後継者が定着しているが、また飼料畑の不足と点在、農道の不備等々農家共に問題点はあるが、今年から五九九年に実施する岡山中地域畜産基地建設事業で、道路の整備、飼料畑の造成、共同大型サイロの建設等が予定されており、これが完成すれば名実共に近代的な酪農の里となるであろう。

いづれにしても、岡山県農業士、中山毅氏をリーダーとして、限らない発展を続ける蓬原を関係者は期待している。
(山口見示)



あとがき
先月号のこの欄でも書きましたが、コンピュータを導入して、一月半がたちました。

実際に動かしてみて、確かにその計算能力はすばらしく、これまで手計算で二、三時間かかっていた減価償却の計算がほんの数分で終わります。調査表の計算をさせることができるようになったら、次の目標は莫大な数の情報のファイル、等々、夢は含らむのですが、何分、素人がゼロから始めたプログラム作成ですから時間がかかるのが悩みの種です。しかし、プログラムができた時にみせる、目覚ましい働きを考えると、多少の時間を費やすのも苦になりません。

とにかく、今は、初めて楽器を手にした少年と同じです。なんとかして、自由自在に音階を奏でたいものです。

岡山畜産便り(十一・十二月号)
第三巻 第一〇号
(通巻二四二号)
昭和五十七年十一月二十五日
発行人 花尾省治
編集人 竹原宏
岡山市磨屋町九十一番
岡山県農業会館内
岡山県畜産会
電話・岡山 八五七五番
振替・岡山 八五七五番
岡山市丸の内一丁目
ふじや高速印刷所
電話・岡山 四九五一番
定価 一部一八〇円(送料共)